



真空管コンデンサー ガイドVTシリーズの 実力を探る！

こんにちはスーツケースローズのヤマネです。今回イースペック株式会社よりお借りした2本の真空管マイク SEIDE VT-2000、VT-3000について、実際のレコーディング現場の視点から書いてみたいと思います。使った場所は僕の所有するAlthronic Studioです。

■第一印象

まず段ボール箱から取り出して、びっくり！ケースが凄くしっかりしています。

そして付属品一式も本格派！ノイマタイプのサスペンション、しかもマイクの取り付けがしっかりしたネジ式です。低価格マイクによくあるクリップ式ではありません。これなら安心して使うことができますし、セッティング後に角度が変わることもないでしょう。

マイク本体の仕上げは高級感があります。VT3000の金グリルが非常に好きです。

■音質の印象

では、気になる音質をチェック。どちらのマイクも低価格マイクにありがちな高域の薄さや無理なハイ上げの感じがなく好感がもてます。チューブばいミッドローの感じも出ています。十分、現場で使える音です。

さすがに70～100万円近くもするような超高級/ビンテージ系マイクと比較すると艶の部分では少し寂しいですが、録音する物にあわせてEQやコンプを調整したり、立て方を工夫すれば、かなりいい音で取れそうです。

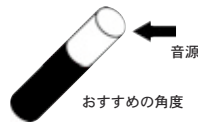
実際にEQで少しハイを上げただけでも、音の印象が激変しました。求めた音とばっちり合ったのです。つまり必要な帯域はきっちり録れている！！ということです。

S/Nはレコーディング用途に十分のクオリティです。特に気になりません。専用電源は10分～30分程で安定します。

■VT3000と2000それぞれの特徴

VT3000は9段階指向性、VT2000は単一指向性のみです。それ以外は基本的にまったく同じ構造だということですが、実際に比較すると2000の方が回路がシンプルなせいか、やや出力が高めになっています。このため2000はくっきりストレートに録れているように感じます。しかし同じ録音レベルにして比べると3000の方が暖かみを感じます。くっきり録る(2000)か柔らかに録る(3000)かで選べるのではないのでしょうか？

また3000はかなり指向性が強いのです。これは、かぶりを



当初、ダイアフラムに対して真正面から音源を置いたところハイが少なく感じました。そこで円筒型のマイクの正面と天辺の間の45度前後の角度から狙うと途端にハイのある気持ちいい音になりました(図参照)。
実際に録音した音のほうは高域も程良く伸びていて、ミッドの強さ、厚みもあります。真空管特有の音の奥行きも感じられ満足いくものでした。
このコストパフォーマンスには非常に驚きました。

■生ドラム；

オーバートップがもっとも良い印象がありました。今回1本だけの使用でしたが、シンバルやタイコをバランスよくとらえています。ちなみにコンプは使わずマイクブリからレコーダー直の状態です。これだけ録音できていれば普段良く使うAKG C414の代わりにも使えそうです。値段的に、2本買ってステレオができますし、AKG C451などのペンシルタイプのスモールダイアフラムと違いラージダイアフラムなので下から上までしっかり拾えています。

ドラムの録音では、マイク自体へのダメージが気になるものですが(特に高価なビンテージマイクでは！)、比較的安価なVT3000であれば、精神的に安心できますので、そういった点でも良い効果がありそうです。少し思い切ったセッティングを気軽に試せそうです。

キックなどの単体の録音の場合は、ブリアンプなどのパッドを併用する必要があります。

■ギター録音；

まずアコースティックギターに使ってみました。指向性を目盛り2つ分無指向側に変えてみました。なかなか良い感じで、弦やボディのフィードバックをしっかりと拾っています。さらに少しハイをブーストすると、まさに求めた音にドンピシャになりました。

次にエレキギターです。アンプから少し離しSM57をクロスな状態で合わせて立ててVT-3000をルームマイクっぽく使ってみました。ダイナミックマイクで拾えない空気感の部分を実によくとらえています。まさにアンプで鳴らしてい

抑えたい場合に有効ですし、ツマミを少し回せばノーマルな指向性を得ることもできますので、自由度は高いです(指向性切替スイッチがマイク本体ではなく電源ユニットについているので切替は簡単です)当然ながらそれに伴い音質も変化しますので、色々切り替えて使うとおもしろいのではないのでしょうか。

内蔵の真空管は12AX7Aです。これはクリーンなサウンドが特徴です。

●実際に使用してみよう

■ボーカル；

女性ボーカルに使ってみました。声の場合、歌う人との相性があります。そこで2000と3000を同時に立ててみました。使ったマイクブリはフォーカスライトISA-110です。2000の方が芯の部分やパワー感を良くとらえている印象です。ですが3000のふくよかさや捨てがたく、結局3000で録音することになりました。このマイクは指向性が強いのでセッティングで音が本当によく変わります。色々な角度を試した方が良いでしょう。そのかわり、自宅録音では周りのノイズを拾いにくいので良いでしょう。

ちなみに、私のテスト時のベストポジションは斜め上から音源を捕らえた時でした。

るサウンドが聴こえます。

■ローズピアノ；

基本性能の高さを十分に感じましたので、同価格帯のマイクではなく、思い切って高級機ノイマンU87と比較してみました。たとえばハンマーが弦を叩く瞬間のアタックなどが、U87よりは柔らかくとらえてしまうようです。とはいえマイクの角度やEQなどを調整していけば、良い音・求める音に追い込んでいけるように感じました。

※ここからは自己責任での作業となりますが、参考的にカスタマイズに挑戦してみました。もちろんこれはノーマル状態での基本性能の高さがあってこそ活かせることです。

■電源ケーブル

まず、電源ケーブルを1万円程度のグレードの高いものと交換してみました。音の質感・量感・艶にいい効果が見られました。マイクの素性の良さがわかります。

■真空管交換

これはマイクの破損・故障などの危険が伴いますので、腕に自信のある方にだけ、お勧めいたしますが…。ちなみに私が交換した球はフィリップス製のもので、全体になめらかさと伸びができました。特に低音に顕著に変化がみられダンピングの良い豊かな量感が得られました。逆に高域の伸びが欲しいければ、SIEMENS製などに交換すると良いと思います。標準搭載の球は中域のふくよかさが良いですね。

■総評

2本のマイクを使ってみて、総じて言えるのはどちらも、音楽的に必要な部分はしっかりとらえている、非常に可能性のあるマイクだということです。音の薄さや誇張が感じられません。

つまりマイクの立て方やEQ、コンプ、接続ケーブル等、使う側の工夫次第で自由に音を追い込んでいける面白いマイクです(もちろん基本通りの使い方で十分な音が得られます)。これでこの値段は驚きで、非常にコストパフォーマンスは高いと思います。

まず試してみたい用途としては、主にボーカル、そしてドラムのオーバートップ(ステレオ)やアコースティックギターの録音などでしょうか。素直な特性から、オールマイティに活用してみたいマイクです。

サスペンションや専用電源・ハードケースまで付属していることも考えると、初心者の方の1本目のコンデンサーマイクとしても適していると思います。



上) アルトフォニックスタジオ
コントロールルーム
右) プロデューサー・エンジニアの
山根淳史さん

プロフィール

■ Suitcase Rhodes (スーツケースローズ)

98年、山根淳史と高見優子で結成。99年4月、自身のレーベル Garden Wall Records を立ち上げ、1st マキシシングル「日々の泡」を発売。発売10日でタワーレコード渋谷店でチャート2位になる。その後2nd マキシ、1st アルバムを発表。また00年4月～01年1月まで京都 α-STATION でインディーズ番組のDJを担当する。02年6月、前作から大きく進化した2nd アルバム「Carrefour」発売。渋谷青い部屋でフレンチエレクトロをテーマにしたフーディングイベントを隔月開催。新作は海外リリース予定。
www.suitcaserhodes.com

■ althronic studio (アルトフォニックスタジオ)

6月に大阪・扇町にオープンした関西屈指の設備を誇るレコーディング&マスタリング専門スタジオ。「Pro Tools を最高の音で鳴らす」をコンセプトとし、電源ブレイカー、各種ケーブル、カスタムメイドのアナログミキサーなど随所にこだわりを見せる。メンテの行き届いたNEVEをはじめとするビンテージ機材を常設しながら、リーズナブルなプライスを実現。
ご連絡は右記HPまで→www.althronic.com